

# 6月の衛研検査情報

## ～トピックス～

### 劇症型溶血性レンサ球菌感染症のまとめ

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、平成11年の調査開始から患者数は増えており、平成26年はこれまでで最も多く、全国で273例でした。細菌担当では、感染症法に基づく感染症発生動向調査事業の一環として、市内の医療機関から受け入れた劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から分離された菌株について、T型別、*emm* 遺伝子、発赤毒素 (*spe*) 遺伝子の検査を行っています。さらに菌株を国立感染症研究所に送り、そこでM型別、薬剤感受性試験などを行っています。

今回は平成26年1月から12月までに受け入れた菌株について、その検査結果を報告します。

**主な結果** 市内では、毎年5株程度の菌株が搬入されていましたが、平成26年は13株が搬入され、例年よりかなり多い年でした。起病菌のほとんどはA群溶血性レンサ球菌で、そのうち「T1型 M1型 *emm* 1.0」の株が4株分離されました。この株はこれまで劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から最も多く分離されている型です。その他は様々な型を示しました。また、平成26年はB群溶血性レンサ球菌による2事例、G群溶血性レンサ球菌による2事例の菌株が搬入されましたが、いずれも血清型や*emm* 型は異なりました。

### 平成26年度 家庭用品検査結果

家庭用品担当では、日常の生活用品である下着、靴下、帽子、床敷物、カーテンなどの繊維製品および家庭用の接着剤、塗料、エアソール製品、洗浄剤などの家庭用化学製品について、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき検査を行っています。

今回は平成26年度に行った検査について、その結果を報告します。

**主な結果** 平成26年度に規格基準に関する検査で取り扱った検体数は69件、延検査項目数は271件でした。検査の結果、規格基準を超えた検体はありませんでした。

### 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



**主な結果** 平成27年5月は、クロストリジウム-ディフィシル感染症、B群レンサ球菌（GBS）感染症、ぎょう虫（蟻虫）症に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は100,481件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。